

● ナビゲーション計画



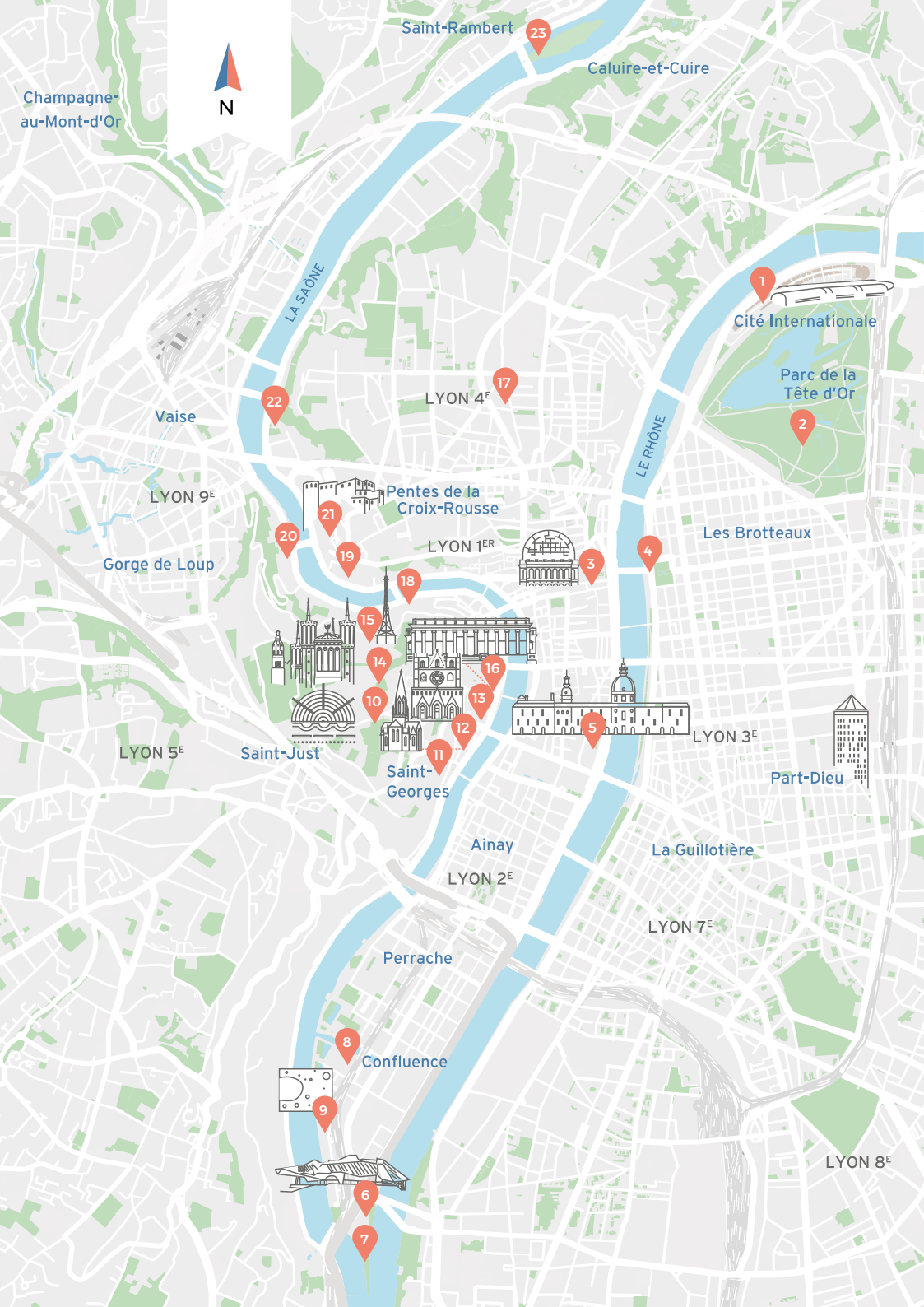
ボートで
リヨン。

LESBATEAUXLYONNAIS.COM

13 Bis Quai Rambaud 69002 Lyon

T. +33 (0)4 78 42 96 81- contact@lesbateauxlyonnais.com





Saint-Rambert

Caluire-et-Cuire

Champagne-
au-Mont-d'Or

N

LA SAÔNE

LE RHÔNE

Vaise

Cité Internationale

Parc de la
Tête d'Or

LYON 9^E

LYON 4^E

Pentes de la
Croix-Rouss

LYON 1^{ER}

Gorge de Loup

Les Brotteaux



LYON 5^E

Saint-Just

Saint-Georges

LYON 3^E

Part-Dieu

Ainay

LYON 2^E

La Guillotière

LYON 7^E

Perrache

Confluence



LYON 8^E

1

シテ・アンテルナショナル



レンゾ・ピアノが設計し、パレ・デ・コングレ、リヨン現代美術館、映画館、ホテル、カジノ、住宅などが集まる。南方には国際刑事警察機構、インターポールの本部が置かれている。

2

テット・ドール公園

117ヘクタールの広さを持つ、街の中心地に造られたフランス最大の植物・動物公園。金のキリストの顔を持つ宝がそこに隠されているという伝説からその名が付けられた。

3

リヨン・オペラ座

1990年代に建築家ジャン・ヌーヴェルにより全面改修され、保存指定のある壁面に触れることなく、驚くべきオスマン式のガラス張りにより収容数を3倍にした。

4

リヨンの橋

リヨン市内にある橋は34本を数える。一番古い橋は、長い間東側からの唯一のアクセスとなっていたギョチエール橋。他の象徴的な橋は、橋の内部を地下鉄が走るモラン橋。初の通行料金を取る橋の一つだった。料金は馬車、馬、ラバ、徒歩の通行手段により決められていた。

5

ホテル・デュー

リヨンにできた最初の病院で、フランスで最も古い病院の一つ。ラプレーがそこで医学を教えた。施設全体が大規模な改装工事の対象となっており、そこにホテル、シテ・ドゥ・ラ・ガストロノミー（美食街）、高級ブランド店を迎える。

6

コンフレュアンス美術館



この美術館はクリスタル、雲、台座の異なる3つの建築素材から構成されている。常設展では偉大な人類の物語を映し出す。世界の起源、その進化と種、人類の永久性のビジョン。

7

川の合流点

ローヌ川とソーヌ川が合流する特別な地点。もともとベルクール広場のあたりだったが、その後シュッド・デネに移動。1769年にミシェル=アントワーヌ・ペラッシュが行った工事により3km南に移された。

8

コンフレュアンス地区



この新しい地区は、有名建築家たちが手掛けた革新的なビルに多くのリヨンの有望な企業を迎え、リヨンのダイナミズムのシンボルとなっている。旧工業地区の荒地に建設され、環境に大きく配慮したアプローチによる、ヨーロッパで最大の都市再開発地の一つとなっている。

9

シュクリエール地区

サイロが並んでいたランポー港の旧製糖工場は、今ではエクスポジションとレセプション用施設となり、現代アートビエンナーレの開催地となっている。旧塩田にはうねった屋根のレストランができた。

10

フルヴィエールのガロ・ロマン遺跡

紀元前43年、ここにローマ帝国の駐屯部隊が設置されたことにより、リヨンの歴史が始まった。街の二大建造物であるフルヴィエール古代ローマ劇場とオデオン（音楽堂）が建てられた。

11

リヨン旧市街

リヨン旧市街はユネスコの世界遺産に登録されている。31ヘクタールの広域に、3つの小教区が連なっている。北のサン・ポール（財政と商業の界限）、中心のサン・ジャン（宗教の界限）、南のサン・ジョルジュ（職人と陶器商の界限）。

12

サン・ジョルジュ教会



サン・ジョルジュ教会は、フルヴィエール大聖堂の設計をした建築家ビエール・ボッサンにより建設された。

13 サン・ジャン大聖堂

その建設には3世紀も要した。ここでは1600年に、アンリ4世とマリー・ド・メディシスの結婚式が執り行われ、1622年には、リシュリューが枢機卿帽を授与された。見事な天文時計を見ることができる。

14 フルヴィエール大聖堂



ピエール・ボッサンの設計により、リヨンの守護者である聖母マリアに奉獻し建設されたこの大聖堂は、街の重要なシンボルとなっている。毎年12月8日にリヨン市民は窓にろうそくを灯し、彼らを守ってくれた聖母マリアに感謝する。1852年12月8日、激しい嵐のせいで、新しい聖母マリア像の落成式が当日の朝になって中止になってしまった。しかし、夕方になって奇跡的に空は晴れた。するとリヨンの人々は自発的に家の窓に火を灯し、外に出てフルヴィエール・ノートルダム大聖堂に明かりを照らしに行った。こうして祭典が誕生したのだ!

15 メタリック・タワー

エッフェル塔に近い建築構造を持ち、1894年の万国博覧会のためにユージェヌ・コロンジュのデザインにより建設された。この塔は街と大聖堂を見下ろす信念を象徴している。現在は電波塔として使用されている。

16 24コロン (24の円柱)

ルイ＝ピエール・バルターの作品で、旧リヨン裁判所だった、24コロンの異名を持つこの建物は、リヨン旧市街に建てられた唯一の19世紀の公共施設。現在はリヨン控訴院が置かれている。

17 クロワ＝ルースの丘

この地区は、16世紀に建てられた《ルース》と呼ばれる石の十字架(クロワ)から名づけられた。カニュー(リヨンの絹織物職人)たちは、新しい織機には天井が低すぎるサン・ジョルジュのアトリエを離れ、クロワ＝ルースに移り住んだ。クロワ＝ルースは、かつての《祈りの丘》から、《労働の丘》になった。

18 オム・ドゥ・ラ・ロッシユ (岩の男像)

《良いドイツ人》。この男性は、15世紀の終わりにニユルンベルクで生まれたジャン・クレベルジェという人物。リヨンでペストが流行した時、重症の患者の治療のため、ジャン・クレベルジェは8000リーヴルを寄付し、《良いドイツ人》という異名で呼ばれるようになった。

19 シュブジスタンス

かつては軍の建物だったが、市の所有物となり、芸術作品の国際製作所と国立リヨン芸術学校となっている。

20 国立音楽・舞踏高等学校 (コンセルヴァトワール)

1988年にコンセルヴァトワールとなったこのすばらしい建物には、1762年クロード・ブルジュラにより世界初の獣医学校が設立された。

21 サン・ジャン要塞

ここは侵略と、人や商品の不法侵入から街を守る監視所だった。かつての要塞と刑務所は、現在は国立税務調査官学校となっている。

22 ソーヌ川沿いの芸術作品



コンフリユアンスからヌーヴィル・シュール・ソーヌまでのソーヌ川沿いに、数多くの現代芸術家の作品が設置されている。中でも、ル・ジョンティエ・ギャルソンの結び目理論、パブロ・レイノソの雲、川俣正の木の小屋、ジャン＝ミシエル・オト二エルのイル・バルブのベルベデーレ、パスカル・マルティエヌ・タユの美しいアフリカの面が見もの。

23 イル・バルブ



イル・バルブには、5世紀に大修道院が設立され中世には大きな影響力を持っていた。